

文化による地域活性化事例

事例 1 大阪市住之江区・北加賀屋

事例 1 / アートな街「北加賀屋」を探访～造船所跡地を核にクリエイターが集う街に～	
場所	大阪市住之江区（木津川沿いの約 4 万 2000 平方メートルの造船所跡地）
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・水の都・大阪の南西部を流れる木津川河口付近に広がる北加賀屋。一帯は大正時代から造船業で栄え、高度成長期には約 2 万人が働いていた。その後の産業構造の変化に伴い造船所は転出し、近代工業の発展と斜陽を象徴するまちであった。 ・その北加賀屋に今、市内外はもちろん海外からも様々なジャンルのクリエイターたちが移り住み、大阪でも屈指の“アートのまち”に生まれ変わりつつある。
開始時期	2004 年春～
主体・キーパーツ	千島土地株式会社（芝川能一社長） 小原啓渡（劇場プロデューサー）
経緯	<p>2004 年春 小原、芝川氏の出会い</p> <p>2004 年秋 NAMURA ART MEETING' 04- '34 スタート</p> <p>2005 年 アート複合スペース「クリエイティブセンター大阪（CCO）」オープン</p> <p>2008 年 千島土地株式会社に地域創生・社会貢献事業部設立 「アーティスト・イン・レジデンス（AIR）大阪」（北加賀屋 2）オープン</p> <p>2009 年 「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ（KCV）構想」提唱 「コーポ北加賀屋」（北加賀屋 5）開設 「空家再生プロジェクト」スタート</p> <p>2011 年 「おおさか創造千島財団」設立</p> <p>2012 年 「北加賀屋クリエイティブファーム事業（みんなのうえん）」スタート 「MASK（MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA）」（北加賀屋 5）開設</p> <p>2016 年 集合住宅「APartMENT」竣工</p> <p>2017 年 「千島文化」オープン</p> <p>2018 年 「M@M（モリムラ@ミュージアム）」開館</p>
取組内容	<p>【北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ（KCV）構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名村造船所跡地を中心に、地下鉄北加賀屋駅北エリアに点在する空き物件や空き地を活用し、アーティストやクリエイターがアトリエ、オフィスなどを開設・運営し、「芸術・文化が集積する創造拠点」として再生することを目指した取組。 ・構想提唱から約 10 年で北加賀屋一帯のアート拠点は約 40 軒を数え、ギャラリーやカフェ、一般公開しない工房、アトリエ等があり、散発的に演劇や展覧会、ワークショップなどのイベントが開催されている。 <p>【アーティスト・イン・レジデンス（AIR）大阪】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティストのための宿泊施設として旅館を改装して 2008 年にオープン。ツアー公演の拠点や滞在型制作時の拠点としての利用を目指したが、一般旅行者も宿泊できるようになり、外国人観光客の利用も多い。 <p>【コーポ北加賀屋（北加賀屋 5）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築家や家具工房、3D プリンタを有する「ファブラボ」などが入居する施設。2009 年に開設され、オフィスのほか、キッチン、サロン、ライブラリー、ギャラリーなどの共有スペースを設け、多様なイベントも実施。

	<p>【空家再生プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千島土地株式会社が保有する空き物件を相場より安価な賃料でアーティストに提供し、北加賀屋エリアへのアート関係者の流入を促進する取組。現在は「北加賀屋つくる不動産」のブランド名で物件紹介も実施。行っている。完全オーダーメイドの手作り眼鏡屋「隠れ屋 1632 秘密基地」等が入居。 <p>【北加賀屋クリエイティブファーム事業（通称=みんなのうえん）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き地を生かして、コミュニティを活性化するためアートと農を組み合わせた取組。野菜作りや農園の看板やイスなどの設備、イベントの企画などを参加者で協力して進めたり、農の勉強会や見学会、田植え体験などのイベントを実施。第1農園（北加賀屋 2=150 平方メートル）と第2農園（北加賀屋 5=500 平方メートル以上）があり、第2農園にはキッチン付きサロンスペースも併設。 <p>【MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼材加工工場、倉庫跡の空間を再生し、現代美術作家の大型作品を無償で保管・展示するスペース。2014年の一般公開時には、国際的に活躍する5人の現代美術作家の大型作品が公開され、大きな反響を生んだ。 <p>【アートマップ、イベントカレンダー発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1度、千島土地とおおさか創造千島財団が一带のアートマップとイベントカレンダーを発行。核となるイベントには、地域のアートフェスタ「すみのえアート・ビート」や大型美術品収蔵庫「MASK」の一般公開など。制作は北加賀屋に拠点を置くデザイン NPO 法人「Co.to.hana」が手掛ける。 <p>【ストリートアート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「インスタ映え」ブームのおかげで、北加賀屋では最近、絵になる壁の前に立って写真を撮る若い女性「カベジョ」の姿が目立つ。「#カベジョ」のハッシュタグがあるほか、専用のアプリもある。カベジョの目当ては北加賀屋町内に点在する壁画で、中には海外から訪れたストリートアーティストが町に滞在して描いた作品もある。今も「壁画が描ける、空いている壁はありませんか」という問い合わせが舞い込む。 <p>【M@M (モリムラ@ミュージアム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代美術家・森村泰昌プロデュース。森村泰昌の作品がいつでも見られる美術館。フロア面積は 400 m²。ふたつの展示室とライブラリー、サロン、ミニシアター、ショップがあり、各部屋にはモリムラによって名前がつけられている。 <p>【千島文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 築約 60 年の文化住宅を補修し、クリエイターや地域の人々がゆるやかに交流するスペースとしてオープン。 <p>【APartMENT】</p> <ul style="list-style-type: none"> アート関係者以外の住民を北加賀屋に呼び込む試みとして、クリエイティブな切り口で再生した集合住宅。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代から続く大阪の豪商であった芝川家が 1912 年に所有地の賃貸業のために成立した、“まちの大家さん”とも呼べる不動産会社、千島土地の存在。同社は衰退した造船業に代わり、アートで北加賀屋を復活させようと長期的な視点で取組を行っている。

事例 2 兵庫県豊岡市

事例 2 / 地方の温泉街に世界中からアーティストが集う～演劇家・平田オリザの挑戦～	
場所	兵庫県豊岡市
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・県から払い下げられた施設を持て余していた豊岡市長が「演劇への開放」を思いつき、相談を受けた平田オリザ氏が芸術監督に就任、誰も思っていなかった「城崎国際アートセンター」の成功から始まった演劇のまちづくり。 ・「城崎国際アートセンター」は国内外の演劇・ダンス集団に口コミで知れ渡り、稼働率 90%の繁盛施設となり、舞台芸術待望の発信基地、また、滞在型の創作施設となる。この演劇のまちづくりの成功が「芸術文化観光専門職大学」構想へと進み、学長候補の平田オリザ氏は 2019 年豊岡市に移住し、世界最大規模の国際演劇祭の開催を目指す。
開始時期	2014 年～（城崎国際アートセンターのオープンより）
主体・キーパーソン	平田オリザ（劇団「青年団」主宰、城崎国際アートセンター芸術監督） 中貝宗治（豊岡市長）
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市に講演で訪れた平田オリザ氏が兵庫県立城崎大会議館（コンベンション施設）の活用方法について、市長から相談を受ける。 <p>2014 年 「城崎国際アートセンター（KIAC）」オープン</p> <p>2015 年 平田オリザ氏「城崎国際アートセンター（KIAC）」芸術監督就任</p> <p>2019 年 平田オリザ氏移住</p> <p>第 0 回豊岡演劇祭開催</p> <p>演劇ワークショップの実施</p> <p>2020 年 豊岡演劇祭 2020 開催</p> <p>2021 年 芸術文化観光専門職大学開学</p>
取組内容	<p>【芸術文化観光専門職大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年、兵庫県北部の但馬地域に誕生する兵庫県立の芸術文化観光専門職大学。芸術文化と観光分野の 2 つの視点を生かし、世界につながる新たな価値を創造できる人材の育成を目指す。国公立では初の、演劇を本格的に学び、実社会を生き抜くコミュニケーション力を修得できる大学。定員は 1 学年 80 人。 ・学長候補は平田オリザ氏。 <p>【城崎国際アートセンター（KIAC）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市にある城崎温泉に位置する、舞台芸術に特化したアーティスト・イン・レジデンス。2014 年オープン。芸術監督は劇作家・演出家の平田オリザ氏。1980 年代に建設された県営大会議館を市が改装して開設。1 つの大ホールと 6 つのスタジオ、22 名が宿泊可能なレジデンス施設で構成される。滞在アーティストは年一回の公募で選ばれ、選考は選考委員会とアートセンタースタッフが行う。選考アーティストは最短 3 日間から 3 か月間の滞在が可能で、その間の宿泊費、ホール、スタジオ使用料が無料であることが海外劇団等の訴求ポイントに。 ・宿泊費が無料の代わりに、アーティストは市民に対して作品のゲネプロ（本番間近に本番同様に舞台上で行う最終リハーサルや通し稽古）の公開やワークショップなど、アートにふれる機会を提供（還元）する。

【豊岡演劇祭】

- ・豊岡のまちづくりのひとつの核として動き始める演劇活動の大きな柱の一つとして計画され、2019年に第0回、2020年に本格開催（コロナにより一部縮小）。
- ・次のような開催コンセプトを掲げる。
 - ・国内では例を見ないフリンジ型（自主参加型）の国際的な演劇祭を目指す。
 - ・アジアの舞台芸術の見本市的性格を持たせ、国内外のプロデューサーや評論家の来訪を促す。そのためキラーコンテンツとして有力演目を招請する。
 - ・専門職大学の臨地実習（長期インターン）の場として機能させる。
 - ・ITを活用した演劇祭独自の地域通貨を開発し、地域経済に貢献する。
 - ・参加カンパニーに市内の様々な空間を上演会場として提供し、将来的な空き家空き店舗対策に結びつける。
 - ・演劇教育についての、先端的な情報交換の場として機能させる。

【演劇ワークショップ（出前授業）】

- ・市内38の全ての小中学校で、演劇的手法を取り入れたコミュニケーション教育を導入。用意した台本をもとに、児童・生徒に別のシチュエーションや新たな展開を考えてもらう、といった想像力の授業。教育プログラムの計画立案にあたっては、平田オリザ氏からの研修プログラムの提案も受けている。
- ・異なる価値観を持つ人とのコミュニケーション能力を高め、将来的には地元の観光産業等の担い手として育つことも期待。

【江原河畔劇場】（略称 ERST（アースト））

- ・平田オリザ氏が主宰を務める劇団「青年団」の新たな本拠地。2020年4月開館。世界への発信を行うと同時に、地域の文化拠点となることを目指す。
- ・JR 江原駅から徒歩2分。旧豊岡市商工会館を劇場に改築。レンガ調で温かみのある外観を残しながら、屋根にかつてのシンボルだった塔を再建。1階には劇場、2階には稽古やワークショップ、発表会などができるスタジオを完備。

備考

- ・文化施設を単なる場所貸し施設でなく文化を醸成する場、そして劇場は演劇を楽しむとともにワークショップや教育普及、創作まで行う場として定義し、数字とストーリーを追求。また、地域経済への貢献にも挑戦している。

文化芸術による地方創生の推進



事例3 徳島県神山町

事例3 / 体験が作家活動に好影響を及ぼし、地域が新しい発見・価値観・交流を享受する	
場所	徳島県名西郡神山町
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1999年にプログラムをスタート。毎年、国内外からアーティストを募集し、自然に恵まれ、人情味にあふれる日本の田舎町・神山町で2ヶ月半ほどの滞在制作を実施。 ・国内外から招聘した芸術家が地域住民の協力のもと制作活動に専念できる環境を提供し、ここで得た体験が今後の作家活動になんらかの好影響を及ぼすこと、地域住民がこの事業を通じて新しい発見、新しい価値観、新しい交流を享受できることを目的とし、活動を継続している。
開始時期	1999年～
主体・キーパーソン	<p>NPOグリーンバレー (主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神山に関する情報発信／サテライトオフィスの誘致 ・地域経済の活性化や文化の促進／地域課題の解決と、そのモデルの発信 ・アーティストの制作支援／アートによるまちづくりの推進 ・自然や居住環境の維持と改善 ・移住・定住の支援／就業・起業の支援 <p>KAIR 実行委員会</p>
経緯	<p>1991年 地元有志を中心に国際交流プログラム開始</p> <p>1997年 徳島県事業として国際文化村構想事業が立ち上がった際、芸術と環境を柱にした事業を提案</p> <p>1999年 住民主導の実行委員会のもと、神山アーティスト・イン・レジデンス事業を開始。 KAIR 課外授業開始</p> <p>2004年 認定特定非営利活動法人グリーンバレー設立</p> <p>2008年 ベッド&スタジオプログラム開始</p> <p>2017年 リターン・アーティストプログラム開始 『KAIR×ABCDEF』開始</p>
取組内容	<p>【神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1999年からスタートした、NPO 法人グリーンバレーが取り組む国際的なアート・プロジェクト。毎年8月末から約2ヶ月余りの期間、日本国内および海外から3名～5名のアーティストが神山町に滞在。作品を制作し、毎年10月下旬から作品展覧会を開催する。 ・KAIRの特色は地元住民による手作りのプログラムであることで、国内に多数あるアーティスト・イン・レジデンスに比べ、制作期間を通じた住民とアーティストの交流や神山町での滞在制作に重点を置き、制作プロセスをともにできることを楽しんでいる。 ・海外のアーティストが作品を制作する傍ら、学校での課外授業を行うなど、さまざまな交流が生じている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンバレーの前身団体が海外から人を受け入れる国際交流事業を始めたことで、神山町では外部から人が来ることへの抵抗感が縮小し、IT 企業などのサテライトオフィスを誘致する際にも移住者を受け入れる土壌につながったという。 <p>【ベッド&スタジオプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOグリーンバレーが神山町の人々及び各施設と連携し、神山町でのアート制作を目的とする新しい滞在を受け入れるプログラム。このプログラムでは神山の宿や制作滞在用の施設物件を無償で紹介している。 ・KAIR 参加アーティスト等の口コミで、KAIR とは別に神山町でのアート制作滞在を希望するアーティストからの問い合わせが増加したため、2008 年から新しい受け入れ体制として整備した。 ・KAIR のプログラムを通じて育ててきた、さまざまな制作支援環境（工房、職人、材料店、スタジオ、アトリエ等）を活かし、滞在を希望する個人やグループに対して期間・規模・テーマに応じた最適な宿や制作スタジオを紹介する。 ・KAIR 参加アーティストたちによると、この場所の最大の魅力は、住民との関わりにあるという。 <p>【リターン・アーティストプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KAIR を経験したアーティストに、一定期間（5 年以上）を置いてもう一度来てもらうプログラム。アーティストたちが KAIR に参加した後、どんな風に活動していたのか、今は KAIR をどう思っているのかを聞く機会となる。 <p>【KAIR×ABCDEF】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸や伝統文化の継承や提案など、世界に向けた神山や徳島の文化の発信を視野に入れながら、アートとコラボレーション。アーティストも運営側も、コミュニティへの思いや関わりがより深いものになる長期的な共同プロジェクト。 <p>【芸術村として、道路をきれいに。日本初のシステムを導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ生まれの道路整備プログラム。道路の区間を区切って、そこに民間の企業などのスポンサーが付き、スポンサーが行政に代わって掃除をするもの。日本では神山での取組が初めてだった。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・神山アーティスト・イン・レジデンスに取り組むNPOグリーンバレーは、文化芸術にとどまらず、地方創生のロールモデルとしてたびたび取り上げられる神山町の取組とも連携し、サテライトオフィス支援事業や神山町移住支援センター受託管理とともに、かつての縫製工場を IT スタートアップ誘致施設として、コワーキングが可能なインキュベーション施設に改修した「神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス」の音頭もとっている。 ・サテライトオフィスに興味がある企業にお試しで使ってもらう。イベントが行える多目的コワーキングスペースやテレビ会議が可能な会議室、専用打合せスペース、共同キッチンやシャワールームを備える。